シナリオ小説「ハンバーガーマン」
第2話「2人目、現る！」

ナレーション「ついに変身を遂げたハンバーガーマン！そして、次は2人目を探す番だ！」
1.ビルの屋上＜昼＞
カイトと少女が話している。
少女「ねぇ、お兄ちゃん、ワシのメタボリックンがやられちゃったよー。」
カイト「そう悲しむなってリオン。次の手は打ってある。」
カイトは第2の怪人、ドッグメタボリックンの人形を持っている。
2.わくわくベーカリー＜昼＞
イチローのバイトの最終日。
主人「まさかイチローくんがヒーローに選ばれるなんてね！はいこれ餞別。」
主人、イチローに餞別袋を渡す。
イチロー「ありがとうございます！短い間でしたけど、お世話になりました！」
主人の奥さん「向こうでも頑張ってね。」
イチロー「はい！」
3.外<昼＞
研究所へ走って向かうイチロー。
イチロー「急げ、急げ。」
4.高田研究所・研究室＜昼＞
ミナコ「やっと来たわね。イチローくん。」
イチロー「ミナコさん、お疲れ様です！」
所長「お疲れさん、イチローくん。早速だが、君にある仕事を頼みたいと思っている！」
イチロー「ある仕事？」
所長「2人目の情報が手に入った。」
5.高田研究所・モニター室＜昼＞
所長「フィッシュバーガーマン・魚住マサトくん。光道大学4年生・フェンシング部に所属している。」
モニターには、マサトが不敵の笑みを浮かべている。
イチロー「（不機嫌に）いけ好かない顔してるなー。」
所長「だからこそ、説得のしがいがある！早速行ってきてくれ！」
ミナコ、イチローの右肩を触る。
ミナコ「頑張って、イチローくん♡」
イチロー「（顔を赤らめて）はっ、はい。」
所長「単純だな。」
6.光道大学・中庭＜昼＞
マサトを探すイチロー。
イチロー「あのー、魚住マサトさんってどこにいるか分かります？」
生徒1（男）「さあ、知らないなあ。」
次々と聞き出すイチロー。
イチロー「魚住マサトさんはどちらに？」
生徒2（男）「そこの体育館でフェンシングの練習してるよ。」
7.同・体育館＜昼＞
ついに魚住マサトに遭遇する。
イチロー（心の声）「プロジェクト頓挫しないように頑張るぞ！」
マサト、フェンシングの剣を持ちながらイチローの方へと歩み寄る。
マサト「君か。俺の事を嗅ぎまわってる奴は。」
マサト、刃をイチローの方に向ける。

イチロー、ビビる。
イチロー「魚住マサトさんですよね？オレ、高田研究所でアルバイトしてます、馬賀イチローです。」
マサト「アルバイトっていうのも嘘だ。どうせ何たらプロジェクトだろ。」
マサト、刃を下に向かせる。
マサト「風の噂で気づいてたよ。俺は選ばれたんだと。だが俺はこの賭けには乗らない。他の所にあたってくれ。」
マサト、その場から去る。
イチロー「（不満げな面持ち）」
8.高田研究所・研究室＜昼＞
所長「無理だった・・・じゃないんだよ！それを上手く説明しないと！」
イチロー「でも所長、全て勘づかれてたんですよ！無理ですって！」
ミナコ、思いつく。
ミナコ「そういえば彼、フェンシングやってたわよね？フェンシングで勝負って事でいいんじゃない？」
イチロー「フェンシング？出来るかな？」
ミナコ「大丈夫！練習すれば上達出来るわよ！」
イチロー「練習？（切り替えて）よーし！」
9.同・トレーニングルーム＜日替わり・昼＞
イチロー、フェンシングの練習を所長達とする。
10.光道大学・体育館＜1週間後・昼＞
フェンシングの練習をするマサト。
イチロー「マサトさん！」
マサト、イチローの方へ振り返る。
そこには、白いユニフォーム姿のイチローが剣を持ちながら立っている。
イチロー「一緒に勝負しましょう！マサトさんが勝ったらマサトさんの好きにする、オレが勝ったらバーガーヒーローズになるって事で！」
マサト、あきれる。
マサト「ふん。」
その後、熾烈な戦いが起こり、得点板では三対二と、イチローの勝ち。
イチロー「やったー！！」
マサト「（冷静に）クソ・・・」
イチロー「これでバーガーヒーローズに入ってくれますよね？」
マサト「・・・しょうがない。なるとしよう！」
イチロー、ガッツポーズで
イチロー「やったー！！」
その時、ベンチにあるイチローのスマホから電話が鳴る。
イチロー「(スマホに耳を近づけ）はい、イチローです。・・・えっ！？メタボリックンが！？」
マサト、事の事態に察する。
11.市街地＜昼＞
ドッグメタボリックンが人々を襲っている。
ドッグメタボリックン「太らせてやるワン！」
ドッグメタボリックン、人々の足を噛みながら次々と太らせてゆく。
人々の悲鳴が高鳴る。
イチローとマサトが駆けつける。
イチロー「そこまでだ！メタボリックン！」
ドッグメタボリックン「お前は噂のハンバーガーマン！」

イチロー、バガチュアをバーガーベルトに装填し、左のレバーを押す。
イチロー「バーガーチェンジ！」
そして、黄色のスーツと茶色のマントに身を包み、ハンバーガー型のマスクを装着する。
ハンバーガーマン「いくぜ！」
ハンバーガーマン、ドッグメタボリックンの左頬を1発パンチをする。
ドッグメタボリックン「ぐあっ！こうなったら！」
ドッグメタボリックン、爪でハンバーガーマンを引っかく。
ハンバーガーマン「ぐあっ。」
ハンバーガーマン、うろたえる。
マサト「くっ、しょうがない、助太刀してやる！」
所長、バイクでやってくる。
所長「マサトくん！やっと変身する気になったようだな！これを君に託そう！」
所長、ベルトとフィッシュバーガーバガチュアをマサトに託す。
マサト「ふん、これでバーガーヒーローズの中でのし上がってやる！」
所長「えっ？」
マサト、バガチュアをベルトに装填し、左のレバーを1回押す。
マサト「バーガーチェンジ！」
そして、水色のスーツと白色のマントに身を包み、フィッシュバーガー型のマスクを装着する。
マサト「フィッシュバーガーマン！」
ハンバーガーマン「マサトさんが変身した！」
その時、メロンソーダ型のドリン、ドリンメロン、現る。
ドリンメロン「マサトさん、初めまして！」
フィッシュバーガーマン「君は？」
ドリンメロン「ぼく、ドリンメロンと言いますドリン！よろしくお願いしますドリン！（一礼）」
フィッシュバーガーマン、ベルトのレバーを2回押す。
12.高田研究所・研究室＜昼＞
フィッシュバーガーマンの武器、フィッシュソードが転送される。
13.市街地＜昼＞
フィッシュバーガーマン、フィッシュソードを持ち、ドッグメタボリックンに攻撃する。
ドッグメタボリックン「ぐはっ！」
フィッシュバーガーマン、フェンシングの如くドッグメタボリックンを圧倒する。
フィッシュバーガーマン「とどめだ！」
フィッシュバーガーマン、ベルトのレバーを三回押す。
フィッシュバーガーマン「バーガーヒーローズの頂点に立つのは、俺だ！」
フィッシュソードの中の無数のフィッシュ型の青い光弾がドッグメタボリックンに命中する。
ドッグメタボリックン「やられるのやだワン！」
ドッグメタボリックン、爆発する。
フィッシュバーガーマン、爆発の後ろに向ける。
ドリンメロン「やりましたドリン！」
14.高田研究所・研究室＜昼＞
ミナコに手当てされるイチロー。
所長「マサトくん、頂点に立つっていうのはどういう事かね？」
マサト「・・・そのままの意味です。」
所長「いや、そのままの意味じゃなくて。みんな平等にやってもらわないと困るんだよ。」
マサト「じゃあリーダーになります。」

所長「何言ってるの？リーダーはイチローくんだから。」
イチロー「リーダー！？（傷が痛みだし）痛てっ。」
ミナコ、イチローを支える。
イチロー「（所長に）いつからオレ、リーダーになったんですか！？」
所長「だって第1号だから。」
イチロー「無理ですって！オレ素質ないですもん！」
所長「いやいや、なってもらわないと困るんだよ！」
イチロー「だから！」
マサト「だったら俺がリーダー・・・」
所長「（マサトに）あっ、君はいいから。」
15.とある館・大広間＜夜＞
長いテーブルにカイト・リオン・壮年の男性・婦人・老婆・小太りの少年が座っている。
壮年の男性「（カイトに）ドッグメタボリックンは残念だったが、今後のために雪辱を果たさないとな。」
カイト「・・・はい。」

ー続くー

